



“僕の家族”

5歳児 タイ

幼年美術

605

2019 10月号

発行所 大阪府東大阪市長田中4丁目6-3

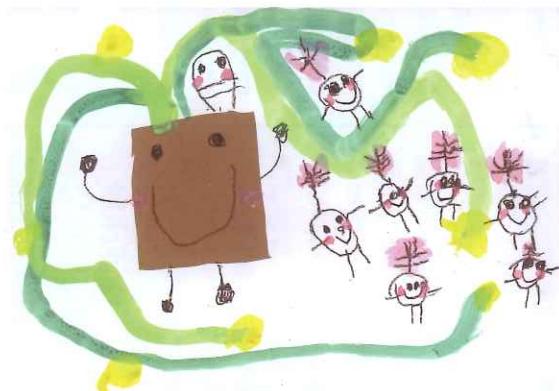
ペンてる(株)大阪支社内

全国幼年美術の会 〒577-0013 ☎ (06)6747-1601

発行人 木代喜司

年間購読料 3,000円 1部300円(送料込み)

第49回世界児童画展 作品より



“わたげちゃんのおさんぽ”

3歳児 大阪府



“ヘリコプター”

4歳児 茨城県

家の前にある児童相談所(以降、児相)の通用門に、50年以上前からある桑の木。何故か毎年、根元からバツサリ切られているのです。しかし又、わき芽が出て青々と葉が茂り、実を付けるのです。私は50年以上見続けていますが、誰一人、桑の木に気付く人はいない様で、今年も植木屋さんが、実のなる前に切つてしましました。

こどもの頃、口を赤紫に染め。お友だちと「べえ」と言つて大笑いしたり、搾つてジュースにしたり、そのジュースで染め絵をしたりして遊んで来たので、京都の街中に桑の実がなる木があるなんて、嬉しくて「誰にも教えたくない!」と、今でも毎年、こつそり食べでは数日を過ごしているのです。でも何故、児相の職員や、やつて来る保護者やこども達は、この桑の木に気づかないのでしょうか?保育者だったら、きっと気付いて保育の中に組み入れるだろうに。同じこども達と関わる場で、何故なのか?こどもの心の問題や発達を内容としている場で、生きているそれも実を付けようとしている桑の木を、平気で植え入れるやうな事はない。だからこそ、大切な命あるものを大切にしてもらいたいのです。切られて可哀想な桑の木。又芽を出して実を付けて、夏の到来を知らせてください。強い生命力にあやかつてと、私は毎日切り株を撫でています。数日後、桑の木の根元に、参議院選挙のポスターの看板が立ちました。大きく茂った桑の木が、もし邪魔だからと切られたのであれど、本当に可哀想なりません。

全国幼年美術の会副会長 奥山淑子

一巻頭言

桑の実がなる頃



第56回 全国幼年美術の会 夏季大学

実技研修

実技研修C【石川幼年美術の会】

和紙染め

「こまつた…」を「たのしい！」
「おもしろい！」に変える工夫

指導担当：森田ゆかり

和紙染めを子どもと楽しみたいと思つても「染め液がこぼれ掃除が大

変」「染め液の色が混ざつて汚くな
る」「子どもだけでは上手く紙を広
げられない」などと面倒に感じ、な
かなか活動に取り入れられない保育

者が少くないようです。今回は保
育者の視点、子どもの視点から和紙
染めを考える機会となりました。

最初に、保育者自身が余裕をもつ
て子ども一人一人の表情や行為を
「見る」言葉を「聴く」、心動かし
ている瞬間に立ち会うには、環境を
どう整えておくとよいかという工夫
を先生からたくさん教えていただき
ました。参加者は黒板に貼られた染
め紙を見て、「早くしたいな」「あん
な模様にしたいな」と子どものように
にわくわくした様子でスタートしま
した。環境が導入になっています。



染めることに没頭したり、周りの
方の様子を見ながら「どんな風に折
ろうかな」「どうしたら花や丸の形
になるのかな」「染め液はもう少し
薄くしたいな」などと一人一人が試
行錯誤をしていましたが、気づけ
ば周囲の方と協力して和紙を広げた
り、驚きや感動を共感し合ったりす
る姿が見られました。その様子から、
子ども側の気持ちも十分に感じてい
ただけたのではないかと嬉しくなり
ました。

この研修では、保育者が事前に環境
を工夫することにより子ども達と一緒に
一緒にゆつたりと楽しめること、その
感動や驚きなど心動かす瞬間に立ち
会い共感できることの大切さを学び
ました。やり方次第で、身近な道具
で簡単に楽しめ、何度も飽き
のこない奥の深い遊びを体験するこ
とができた有意義な実技研修でした。

実技研修F【京都幼年美術の会】
シユレッダーの紙を使って
あそぼう

指導担当：立石知恵美

廃品を造形あそびに利用する↓
既存の材料よりも、生活に使われて
いる空き箱・プラスチック容器・ペ
ットボトル等々の身近な物で造形
あそびをすることで子ども達はリラ
ックスして、主体的なアイデアが出
てくる機会につながります。

実技①

シユレッダーした色ケント紙をビニ
ール袋に入れ、その中に木工用ボン
ドを入れ、平たく固めた物（事前に
何枚か準備）をビニール袋から出し
て、ハサミ・のり等を使い、色ケン
ト紙に載せて、描画を作り上げる。
(ケント紙の破紙をなるべく使う)

実技②

ポスターの紙や紙粘土を使って、立
体物を作り、それに木工用ボンドを
塗り、シユレッダーした色ケント紙
を付け、それに紐をつけてモビール
(天井装飾)を作る。

※時間が少し足りない感じでした
が、各々オリジナル溢れる作品が
出来ました。

和気藹々とした雰囲気の中での実
技研修となりました。

実技研修G【和歌山幼年美術の会】

新聞紙という素材の可能性を
探索しましょう

指導担当：楠見 良子



新聞紙という題材は、「どこにで
もある」、「どの年令でも楽しめる」
「費用がかからない」等、少しの量で
も大量でも五感を開放して遊べます。
発表園での実践では、洋服にして
みたり、ひらひらさせたり、耳を澄
ませて音を聞いてみたり、かくれん
ぼをしたり。そのうちに破ることが
始まり、おひげ、りぼん、マント、
新幹線、あしあとになったり、散ら
ばつた破片でみんなでパラバルーン
ごっこ：このように自分の思いを
もって遊びが続いたことから、それ



ぞれの思いを持ちながらみんなと一緒に興味を持つておもしろく遊べることも分かりました。

実技では、指導者の楽しいお話に乗って、海賊の帽子が消防士の帽子に変化し、次に船長の帽子に、さらに船になり、雷が落ちてすこしこわれてたいへん！一つの形から様々なに変化することを体験しました。子どもだときっと魔法みたい！と思ううだらうなど感じます。

次に、一枚の新聞紙から思い思いの帽子を作り、それを使ってグループでお話作りをして演じました。短い時間設定にもかかわらず、ぶた、犬、うさぎ、キン肉マン、おに、金魚：個性あふれる楽しい帽子ができあがり、それを使って、初対面、年代の相違を超えて愉快にお話を演じる姿に、子どもたちと一緒に生活を楽しみ、活動的で生き生きとした先生たちの日ごろの様子が伝わってくる実技指導でした。

一つ目は、光で、真っ暗な時間の画用紙に描いてみました。長時間露光で撮影し、ライトを点けたり消したり、空中で動かしたりする6秒間の出来事が、オリジナルな「時間の絵」になりました。カメラの前で、みんなでライトをぐるぐる。撮った画像をネット上にQRコードで共有しました。二つ目は、光と影で遊びました。大人は、「子どもたちが遊びの中から多くのことを学ぶということ」を知っています。今回も環境を暗くして遊びを捉えてみました。暗い場所、暗い部屋に、子どもたちはワクワクします。そこに光が当たると影ができる、明暗や反射、時には思いもよらなかつた光の形に驚いたりもします。

これらの講座は、いずれも保育や教育を司る大人が、知らぬ間に持つている「美」への認識（①材料をこう扱うと綺麗だよ、②もっともつとこうしてごらん、美しくなるよ）を、造形遊びに浸ることによって再認識あつ！本当にきれい。あれー？どうして？②そうか！なるほど！すごいねー）することを目的としま

実技研修」【美育文化ボケット】

ためしてつくつて、 光と影から生まれる世界

～光をあそぶ・光でつくる・暗じを楽しむ～

指導担当：秋山 道広

一つ目は、光で、真っ暗な時間の画用紙に描いてみました。長時間露光で撮影し、ライトを点けたり消したり、空中で動かしたりする6秒間の出来事が、オリジナルな「時間の絵」になりました。カメラの前で、みんなでライトをぐるぐる。撮った画像をネット上にQRコードで共有しました。

絵を読む会 ほ

絵を読む会



した。暗くした環境の中で、光という探求の道具だけを提示し、参加の方々の目の先と一緒に見ることだけに専念しました。すると、そこには思いも寄らない光の美しさとともに、造形を探求しようとすると、その姿がとても美しく映っていました。

絵を読む会 と

担当：高橋 容子（滋賀幼美）

『2歳児』

●リトミックで「トンボ」になりきって身体表現を楽しんだ後、絵の具でトンボの動きを楽しむ。

- 保育者の思い→手を大きく伸ばして絵の具の表現ができるようになるには

『3歳児』

●消防車の見学をした後、消防車の表現を楽しむ。

- 保育者の思い→慎重派で几帳面、はみ出すことを嫌う子どもへの対応

『4歳児』

●好きな時に、自由に表現を楽しむ。

- 保育者の思い→黒のサインペンだけでなく、他の色も準備すればよかったです。

『5歳児』

●お話を聞いた後、お日様の王様をイメージして、伸び伸びと表現を楽しむ。

- 保育者の思い→いつも友達の真似をする子どもへの指導について

・保育者の思い→消防車の見学の後、絵の具で消防車を描く。

・保育者の思い→甘えん坊の子ど

は素晴らしい。子どもを認める保育者であつてほしい」と教えていただいた。

- もが、自分なりの経験を溜め込み表現できた。
- 梅雨で雨が降り続いた時に、「てるてるぼうずいちまんこ」の絵本を見た後、明日は天気になりますようにと願い、思いを絵に描く。
- 保育者の思いで黒のサインペンのみで、思いを一気に描かせたい。
- 遠足で遊んだ楽しい思いを描く。
- 保育者の思いで遊具の表現でなく弁当の様子を丁寧に描く思いを大事にしたい。
- 保育者の思いで遊具の表現でなく弁当の様子を丁寧に描く思いを大事にしたい。
- ザリガニと関わり、ザリガニの動きや特徴等体験を通して学びザリガニを描く。
- 保育者の思いで遊具の表現でないが画面いっぱいに表現できた。
- 初めての素材の出会いを、楽しい素材の出会いになるように環境の工夫をする。
- 子どもの描きたい思いに適した画材を準備する。
- 保育者の描かせたい思いを子どもに強く出さず、素直な気持ちの表現を受け止める。
- ※子どもが表現したくなるような素材や画材の教材研究に努める。
- ※遊びより何を育てていくのか、個々の子どもの育ちをしつかり読み取ることが重要。
- ※表現した後の子どもの思いをしっかり丁寧に聞いていくことが次の

表現に繋ぐ。

※「一人一人の子どもをしっかりと読み取る・一人一人の子どもには花がある・一人一人には発達の花がある」ことを忘れず毎日の保育に力を注いでいく。

絵を読む会

担当：山岸 芳子（滋賀幼美）

持つてきただいた絵から、保育者自身が概念から抜け出せず悩まれた。造形活動を通して、幼児教育に何を育てるか悩まれ考えていた

だいている事に、私は安堵した。

また、熱心に話し合われる受講者の姿にも、これからの中年期の造形活動に希望が見えたようだ。また、助言の先生から、「子どもが見える・子どもが楽しい保育」に取り組むことが大切。その事が豊かな造形表現につながると教えていた。明日からの保育に、勉強に生かしてもらえると思う。

初めての素材の出会いを、楽しい素材の出会いになるように環境の工夫をする。

担当：池永 満子（和歌山幼美）

子どもたちは、それぞれ絵を描くことを楽しみ、自分なりの表現をしていった。子どもの描いた絵を見る時、保育者は対面ではなく、横に座り話を聞き、想いに寄り添い共感するこ



絵を読む会

担当：根布 律子（石川幼美）

「絵が苦手」と感じている子ども、保育者曰く「やつつけ仕事で」描いてしまう子どもの絵などを見ながら、大人の感覚で良し悪しを決めずにその子の感性や良さを認めていくこと、大人の概念を捨て、その絵を認められるような「見た」を高める必要性があることなどを話し合う。

「絵が苦手」と感じている小学生の話を聞き、自分なりの自由な表現を「これでいい」と思える子どもに育つために、乳幼児期の描画に対する保育者の関わり方が重要なことを改めて感じる場となつた。

とが大事である。持参された3枚のトマトの絵の中で、どの絵が好きか、又その理由を発表しあつた。適切な言葉がけをする為には褒めるポイントを抑え、具体的に褒める様にすることが、大切であると助言された。

あとがき

卷頭言は、副会長の奥山淑子先生です。

編集の関係で随分と季節がずれ込み、申し訳ありません。桑の木にまつわる、ほろ苦いお話でした。そうですね、生きとし生けるものへの眼差し。効率や合理性のみに目をやり、それに縛られ追われする日々に身を置いていると、先生ご指摘のようなことを平気でしかけています。自分の姿が、大いに反省させられます。同時に、何とも言えない温かい気持ちにしてくださいました。「子ども達に豊かな自然経験を！」と言う前に、自分自身が、先生の様な目や心で、身の回りの自然と接しているのか、時折振り返ってみたいのですね。

話は変わりますが、子どもに向かって「今、何をする時間かな?」と言ふことばを頻繁に耳にします。いや、私自身も、我が子に日々口にしていたことばです。しかしこのことばを向ける先は、子どもではなく、それを考へなければならぬ大人の私なのだということを強く教えられたことがあります。

「今、何をする時間かな?」は、形式上は問い合わせているようですが、実は私が思い描く行動であつたり、集団で決められた行動から乖離していることに気づけ!と叱責し、その行動を変えるようにならざるを得ません。しかし、周囲の注意は何処吹く風で、只ひたすらに泥遊びをすることの姿を見ていると、時間を忘れる程に、周りが見えない程に没頭し、そして新しい発見により世界がどんどん広がるという、掛け替えのない時間を過ごしていました。分かつていても、ついつい忘れがちになってしまふことを、常に反省の中で思起こしていくものです。